

《書 評》

J. A. de Casanova, A. Mastrangelo 著／伊藤宏訳

慢性呼吸不全の運動療法

神奈川県総合リハビリテーション病院外科

山 本 敬 雄

呼吸器疾患の運動療法という、わが国では比較的訓練の薄い事柄に、大方の読者は戸迷いをおぼえるかもしれない。この本に述べられている運動療法は、われわれが肺理学療法と呼んでいるものから一步すすめて、肺疾患の予防的処置についてまで拡大して説明されている。

すでに欧米においては、肺理学療法は一般化され、患者自身が持つ呼吸能力を訓練によって最大限に利用し、その換気能力を強化することによって疾病の治療に役立たせており、専門の肺理学療法士 (respiratory therapist) が養成されている。すなわち彼らは医師の指導のもとに、看護婦、occupational therapistなどと密接な連携を保ちながら、肺疾患の治療のみならず麻酔後や手術

後の呼吸管理に、はば広い医療活動にあたっている。一方わが国についてみると、この方面への理解は必ずしも十分とはいえず、医療従事者のなかにおいてすら関心が薄く、したがってこの領域に関する著書も極めて少い現状である。この意味からも、今回伊藤氏のご努力によって翻訳、刊行のはこびになった本書は、まことに時機をえたものといえよう。とくにフランス語の文献に接する機会の少い私などは、フランスにおける肺疾患治療のきめ細い医療の実態を伺い知ることができた。

本書は3部からなり、第1部には呼吸器の解剖、生理、病理の基礎をもとにして、呼吸不全の病態とその検査法による評価が概説されている。これは2部に述べられる運動療

法のいろいろな手技を実際に応用するにあたっての基本的医学知識ともいふべきであろう。また3部においては日常われわれが遭遇する個々の肺疾患について、その機能の欠陥、合併症などに対する運動療法の適応について述べるとともに、外科手術によって必然的に患者が蒙る障害に対する肺理学療法の適応についても説明されている。

わが国における胸部疾患の医療についてみると、薬物療法や外科的療法の治療成績は必ずしも諸外国のそれに比して、優るとも劣るものではないが、一方肺不全患者のリハビリテーション、肺理学療法を含む運動療法に関しては、専門の paramedical staff の養成の必要性を痛感するとともに、臨床医家のこの領域への一層の理解が必要であり、この点からも座右の書として推せんに値するものといえよう。

(B5版, 121頁, 定価3,800円, 医歯薬出版発行)